国際歯科研究学会日本部会会報● Japanese Association for Dental Research

2019 -1
March

Newsletter for JADR

Ⅰ．会長就任ごあいさつ
～“元気が出る” JADR, “元気のある” JADR を目指して～

JADR 会長　今里　聡
（大阪大学大学院歯学研究科 歯科理工学教室）

本年 1 月から，2019 年～ 2020 年の会長を拝命致しました。この 2 年間，副会長／次期会長の中村誠司先生，財務担当の森山啓司先生（写真），ならびに全理事の先生方と力を合わせて会務の運営に邁進致します。浅学菲才の身ではありますが，JADR の発展のために努力を惜しまない所存ですので，何卒よろしくお願い致します。

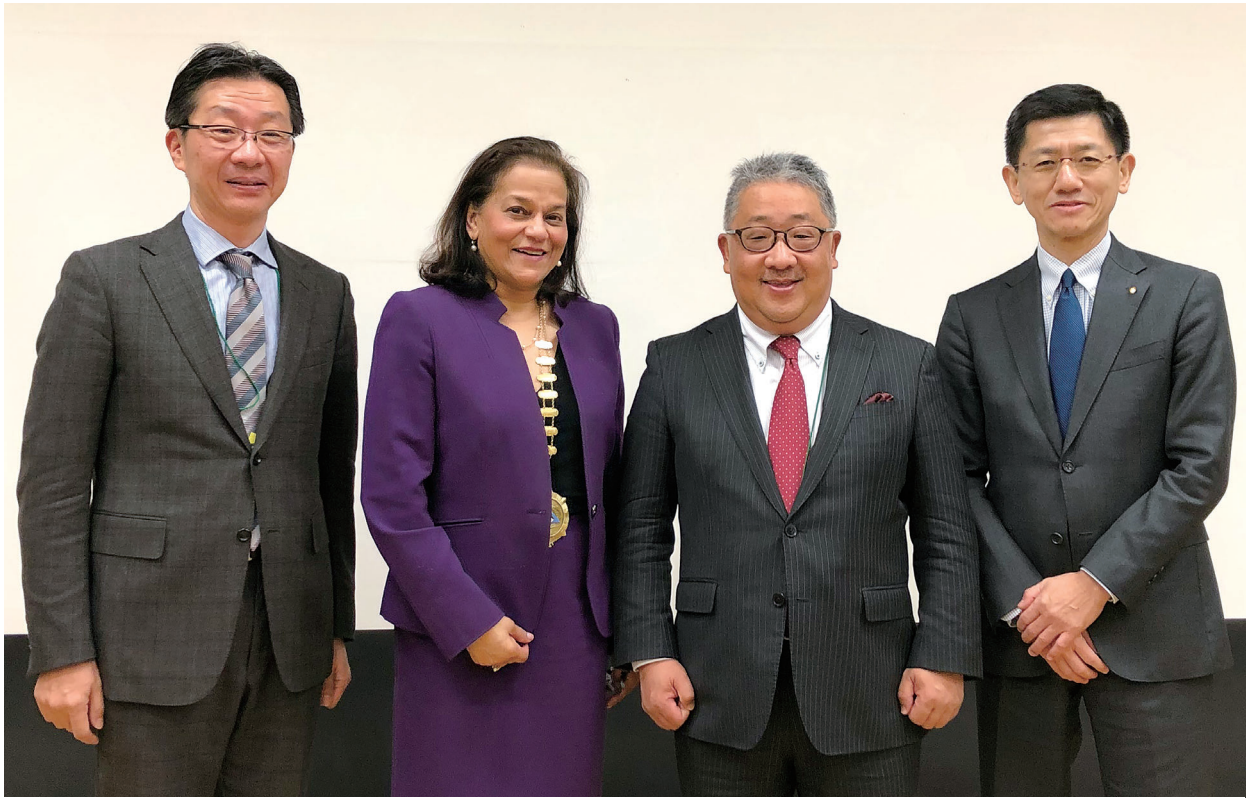
私は，1989 年に IADR および JADR に入会し，2011 年から評議員，2013 年から理事として JADR の運営に参加させていただきました。とくに，2015 年からの 4 年間は，高田　隆会長，山崎和久会長のもとでさまざまな会務執行について勉強させていただき，また，元 IADR 会長である作田　守先生，黒田敬之先生，安孫子宜光先生といった錚々たる方々からのご薫陶を受けて，JADR の歴史や成り立ち，IADR との関係性等について学ばせていただきました。会長の任につくにあたり，2006 年（平成 18 年）に発刊された 50 周年記念誌「JADR のあゆみ」も読みかえしてみましたが，これまで JADR を創り上げ，大きく成長させて来られた先人の偉業に感嘆せずにはいられませんでした。JADR 会長というポジションが非常に重みのあるものであることを意識し，その名に恥じぬよう，気を引き締めて会務に当たらせていただこうと思います。

私が初めて IADR に参加したのは，1992 年にグラスゴーで開催された第 70 回大会でした。当時，全くの駆け出しの研究者であった私は，論文で名前をよく見る海外の著名な方々の発表を直に聞くことができ，また，時として face to face で話をする機会にも恵まれる IADR にすっかり魅了され，その後，英国ニューカッスル大学に留学中に参加したシアトルでの第 72 回大会以降，ほぼ欠かさず毎年 IADR に参加してきました。私がメインで所属する Dental Materials Group は約 1000 人のメンバーを擁する巨大なグループですが，reception や business meeting に積極的に参加するようにしていると，やがて，憧れであった海外の研究者を「友人」と呼ばせていただけるようになり，学会に参加する楽しみがさらに膨らんでいきました。そういった経緯から，第 78 回 IADR 大会（2000 年のワシントン DC 大会）で，Dental Materials Group の Lunch & Learning Program のオーガナイザーとして初めて運営に関わらせていただき，その後，Program chair を何度か経験してから，Dental Materials Group の Secretary（2004 ～ 2007 年），President-elect（2007 ～ 2008 年），President（2008 ～ 2009 年）を務めさせていただきました。また，2007 年から 4 年間は，Hatton Awards の本選での審査員を務める栄に浴し，大変貴重な経験を致しました。こういった中で私が身をもって感じたのは，ヒューマンネットワークの大切さです。人と人の繋がりが生むパワーは，机上で文面を交わすことで得られるものよりもはるかに大きく，学会という団体の存在意義はそこにあると言っても過言ではないと思います。指先の操作ひとつで世界中の情報が簡単に手に入るようになり，そのスタイルが随分変わってはきましたが，それでも学会は「人の集まり」であり，「人のための集まり」であることに変わりはありません。私は，JADR においても，ヒューマンネットワークを重視することで，学会が健全にその機能を発揮し，会員が学会の恩恵を十分に享受できるような運営が可能になるだろうと考えており，人が集うことで “元気が出る”，そんな JADR を目指したいと思います。

また，JADR には，「ならでは」と言える素晴らしい点がいくつもあります。まず挙げられるのは，歯科の基礎系と臨床系のすべての分野がシームレスに幅広く繋がることのできる学術団体であるということです。最近は，特定の専門を深く掘り下げる学会に興味が集まる傾向がありますが，Interdisciplinary な学会には，異分野の知識と情報を収集できると同時に，全く異なる視点で研究成果についての議論が行えるという大きなメリットがあります。積極的な「越境」で新しい世界に足を踏み入れることは，自らの研究を何倍にもスケールアップしてくれます。次代を担う方々には，この醍醐味をぜひ味わっていただきたいと思います。2 つ目の特筆点は，国内で開催されるにも関わらず，学術大会の公用語が英語であることです。JADR では，2012 年の新潟大会からすべてのプログラムの英語化がスタートしましたが，現在ではこのスタイルが完全に定着しています。プレゼンテーションや Q&A

において英語での発信力を磨くことができる絶好の場となり得る点で，とくに若手にとっては非常に役に立つ学会であると断言できます。この2年間は，広報にも力を入れ，基礎系，臨床系を問わず，JADRのこれらのメリットをより多くの方々にご理解いただき，活用していただけるよう努めることで，“元気のある”JADRを実現していきたいと考えております。

私が会長を務めさせていただくこの期には，国内大会，IADR大会とも例年とは少し異なるイベントが控えております。2019年は，3年に一度のIADR-APR大会がオーストラリアのブリスベンで開催され，JADRの学術大会はこれと併催の形となります。また，2020年にはIADRが100周年を迎え，発祥の地であるワシントンDCで3月に記念大会が開催されます。会員の皆様には，これらの大会に積極的に参加いただき，JADRの際立った学際性と国際性を満喫いただきたいと思います。同時に，今後2年間に行われるJADRのさまざまな活動に対して，会員の皆様の絶大なるご支援，ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



左から，森山財務担当理事，Rena D'Souza IADR会長，筆者，中村副会長／次期会長

Ⅱ．JADR会長退任のご挨拶にかえまして

JADR前会長　山崎　和久
（新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野）

2018年12月31日をもちまして国際歯科研究学会日本部会（JADR）の会長職を退任することとなりました。大過なく職務を全うできたのも理事の先生方をはじめとして，会員の皆様のご支援の賜物と深く御礼申し上げます。とりわけ副会長の今里先生，会計幹事の中村先生には会務のすべての面におきましてサポートいただきました。改めて感謝申し上げます。

2011年に初めて理事としてJADRの運営にかかわることになって以来，6年に渡り歴代会長の下で仕事をさせていただき

ました。恐らくどの学会も会長あるいは理事長の職は大変なのだろうと思いますが，JADR の会長職は IADR や日本歯科医学会との関係の中で運営するという独特の大変さがあるように思います。執行部としてごいっしょさせていただいた村上会長，高橋会長，高田会長はいずれも卓越した手腕と幅広い人脈で JADR の運営を大変見事に行ってこられました。自分がそうした立場になったときに同じようにやっていけるのかと不安に思ったものです。

JADR の最近 10 年程の問題は，会員数の減少でした。会長としてできるだけ会員数の減少を食い止めたいと考えました。JADR の財政基盤は決して強固ではありません。会の運営はほとんどが JADR への直接的な会費（現在は日本円にして約 6000 円になるように US ドルを設定しています）と IADR への会員登録している JADR 会員数に応じた分配金で賄われており，会員数の減少は会の運営に大きな影響を及ぼします。

資料によりますと，かつて 2000 名近くを誇った時期もありましたが，2017 年には 1000 名ほどにまで減少しました。歯学部学生の減少，大学を取り巻く環境の変化，大学に残って研究する人の減少など，原因はいろいろあるでしょう。IADR 学術大会の開催地による影響も否めません。旅行先としても魅力のある都市で開催される場合には日本からの参加者も増加する傾向があります。また，北米で開催の場合は 3 月中旬から下旬という日本から参加するのに学務関係の行事と重なるケースも少なくないという問題があります。いずれも以前より問題提起をしていたわけですが，様々な理由から解消される見込みはありません。会員数の減少は財政基盤の弱体化だけでなく，IADR における JADR のプレゼンスにも大きな影響を与えます。その一つが Hatton Award Competition です。IADR の各 Division からそれぞれの会員数に応じて本選に参加できる人数が決まります。私が理事に加えていただいたときには JADR から 5 名を本選に派遣できたのが，2019 年バンクーバー大会には 3 名になりました。我が国の歯科医学研究のレベルは非常に高く，IADR におきましても大きな貢献してきました。予選にエントリーされた方々はすべての参加者が本選に出場してもおかしくないほどの高い研究レベルでしたが，会員数の減少によりアピールする場が狭められてしまうことは大変残念です。

会員数の減少は長い間の懸案で，歴代の理事の先生方の英知を集めても有効な解決策が見つからなかったことを考えればいかにこの問題が難しいかがわかります。小さなことで，効果のほども大きな期待はできませんが，JADR をより広く認知してもらうために，会長任期中に“見える化”に取り組むこととしました。ウェブページの刷新です。これまでも JADR のホームページはありましたが，比較的地味なものであったことに加え，他の専門分科会のウェブページにリンクが張られていないなどの改善点がありました。そこで，新潟大学の葭原理事を中心に少ない予算で制約の多い中，いろいろと考えていただきました。本ニュースレターが皆様のお手元に届くころには，刷新されていると思います。IADR，JADR の情報を得るためにご活用いただければ幸いです。

在任中は通常の会務をこなすことで精いっぱいでしたが，多くの先生方のご協力で何とかやってくることができました。学術大会を担当していただいた，昭和大学の上條竜太郎先生，北海道大学の佐野英彦先生には学会からの支援が乏しい中，大成功に導いていただき感謝いたします。今後も，微力ではありますが，JADR のために活動していきたいと考えております。

最後になりましたが，私の拙い学会運営を献身的に支えていただきました事務局の中倉さんをはじめ，スタッフの皆様に心から感謝申し上げます。

Ⅲ. 第66回JADR学術大会報告

1．第 66 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会を終えて

第 66 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会
大会長　佐野　英彦
準備委員長　星加　修平
（北海道大学大学院歯学研究院
口腔健康科学講座 歯科保存学教室）

第 66 回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会を，北海道大学歯学部を会場として平成 30 年 11 月 17，18 日の両日開催させていただきました。開催するにあたりご高配をいただきました山崎和久会長，ならびに理事の皆様方に深く御礼を申し上げます。本学術大会は基礎研究成果の臨床展開と臨床課題の問題提起をもう一度皆さんに考えていただきたいとの想いで，“Back to the tangible - the symbiosis of basic research and clinical dentistry”をテーマといたしました。そのため 4 つのシンポジウムはすべて臨床関係のもので，口腔外科，補綴，保存，接着といたしました。臨床系，基礎系問わず多くの参加者の方から賞賛の声をいただき，誠に嬉しい思いでありました。本大会は皆様方のご尽力により合計で 150 の演題数，4 つのシンポジウム，key note lecture となり，参加者は

300 名を越えました。

本大会を開催するにあたり，色々と厳しい状況がありました。本大会開催期間中におきまして，ジャニーズグループの嵐のコンサートと重複したため札幌市内のホテル確保が難しく，運営のお手伝いを委託した会社からは日程変更を再考するよう何度か指摘をされました。しかしシンポジストの先生達の日程を再度アレンジするのが難しいと思われるため，参加者が予測を大幅に下回った場合は，自腹を覚悟の上でこの日程のまま開催すると決断いたしました。その決断をした矢先，9 月 6 日に北海道胆振東部地震が発生し，会場を予定していた北海道大学クラーク会館の施設内にも破損が起きました。11 月までには復旧するだろうと言われておりましたが，10 月初旬に入った所で，残念ながら開催日までに復旧は難しいため会場をキャンセルさせて欲しいとの連絡が入り，驚きとともに途方に暮れてしまいました。代替の施設として，札幌市内の施設などを探しましたが，開催まであと 1 ヶ月となっていたためどこも空いておらず，開催を断念しようかという考えも出てきましたが，どうにか最終的に北海道大学歯学部内で開催させていただくこととなった次第です。皆様には突然の変更で色々とご迷惑をおかけしたこと心よりお詫び申し上げます。

“嵐”と“地震”に見舞われた今回の学会でしたが，そのような中で，300 名を越える参加をいただけたことが大変嬉しく，活気ある会場を見ていると胸が熱くなる想いでありました。

最後になりますが，本大会に参加していただきました方々，趣旨をご理解頂きご支援を賜りました企業の方々に心よりお礼を申し上げます。また，運営を一生懸命頑張ってくれた教室員に心より感謝いたします。

1　講演会場の様子

2　Rena D' Souza IADR 会長をお迎えしての夕食会

3　北海道大学歯学部の運営スタッフ

2．Symposium I
「New Era of Oral Medicine」口腔内科学の新時代

北川　善政
（北海道大学大学院歯学研究院口腔診断内科学教室）
中村　誠司
（九州大学大学院歯学研究院顎顔面腫瘍制御学分野）

この度，口腔内科学会理事長の中村誠司先生と北川で本シンポジウムを企画・担当させていただきました。佐野英彦大会長から「口腔内科領域でシンポジウムを是非行いたい」との強い命を受けて本シンポジウムが実現しました。「New Era of Oral Medicine」と題した本シンポジウムでは，Oral Medicine で第一線で活躍されているベテランの先生方に臨床および基礎の両面からに講演を頂きました。

まず，中村誠司先生（九州大学大学院歯学研究院）には，「New insights into salivary gland disease associated with systemic diseases」と題してご講演いただきました。中村先生はシェーグレン症候群や IgG4 関連疾患の研究のトップランナーで，この疾患の臨床，病理，免疫学的特徴について最新の研究成果を概説されました。

次に，北川善政（北海道大学大学院）は，「The cutting edge of pemphigoid ~close relationship between dentists and dermatologists reveals the pathogenesis and a novel diagnostic method~」の題名で，医学部皮膚科と口腔内科との長年のコラ

ボで達成できた，粘膜類天疱瘡の診断技術の進歩，病因の一端に迫る最新の研究結果を紹介しました。

今村佳樹先生（日本大学歯学部）には，日本口腔顔面痛学会の理事長のお立場で，「Burning mouth syndrome: Is it a neuropathic condition?」のタイトルでご講演いただきました。「最近増加し続けている舌痛症は神経障害性疼痛である」というホットな事項について解り易く解説されました。

最後に，日比英晴先生（名古屋大学医学部）には「Therapeutic regenerative medicine」の題名で，組織工学を応用した骨の再生，中でも内科的治療にフォーカスして長年の基礎的・臨床的知見を概説いただきました。

2 か月前北海道を襲った地震，嵐のコンサートにもめげず本学会，本シンポジウムが盛り上がって大盛会でした。本シンポジウムにお声かけくださった大会長に深謝します。今後，口腔内科・外科からの参加者が増加することを強く期待します。

3．第 66 回 JADR 学術大会シンポジウム 2 報告 -Current Topics of Prosthodontic Treatment using Partial Dentures-

横山　敦郎
（北海道大学大学院歯学研究院
口腔機能学分野口腔機能補綴学教室）

モデレーターとしてパーシャルデンチャーの臨床に関するシンポジウムを開催するよう依頼を戴き，テーマを一つに絞らず広くパーシャルデンチャーの臨床の現状を紹介してディスカッションを行うことを考え，“Current Topics of Prosthodontic Treatment Using Removable Partial Dentures” を企画した。東京医科歯科大学若林則幸教授が “New Design Concept and Material Selection in Removable Partial Prosthodontics” というタイトルで CAD/CAM のパーシャルデンチャーへの応用について，九州大学古谷野潔教授が “Removable partial dentures supported by dental implants” というタイトルでインプラント支持のパーシャルデンチャーについて，座長の私が “Prognosis and Efficacy of Partial Denture Treatment” というタイトルでパーシャルデンチャーの予後と治療効果について講演を行った後に総合ディスカッションを行った。JADR においては義歯についてのシンポジウムが久しぶりであったということもあり，その後に開催された懇親会においても，補綴を専門とされない先生方も含めて多くの出席者からご質問やコメントを戴いた。この様な機会を戴いた大会長の佐野英彦先生，シンポジストの若林則幸先生，古谷野潔先生をはじめとして，本シンポジウムにご参加して戴きました皆様にあらためて深く感謝を申し上げたい。

4．第 66 回 JADR 学術大会シンポジウム 3 報告 ― Frontiers of adhesive dentistry: new discoveries promise a bright future ―

林　美加子
（大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座
（歯科保存学教室））

第 66 回 JADR 学術大会にて表題のシンポジウムを，JADR と日本接着歯学会との共催で開催しました。「めざましい発展を遂げた接着歯学が，これまでに臨床にどのように貢献し，将来，接着歯学研究がどこへ向かうのか」をテーマとして，東京医科歯科大学　田上順次教授，日本歯科大学　奈良陽一郎教授，そして北海道医療大学　疋田一洋教授にご講演をいただきました。

田上先生からは，コンポジットレジン修復の接着界面の可視化による評価の最前線を教示いただきました。奈良先生からは，接着修復の成功の捉え方を，数理統計理論に基づき解説いただきました。また，疋田先生からは，CAD/CAM 修復における接着材料・技法の特性を網羅的に示説いただきました。ディスカッションでは，接着理論に基づく試験法の妥当性を中心に意見交換をしました。

大会 2 日目の朝早くからの開催にもかかわらず，多くのご参加をいただき意義あるディスカッションができましたこと，心より御礼を申し上げます。

5．第 66 回 JADR 学術大会シンポジウム 4 報告 ― Advances in Clinical Dentistry Resulting from Basic Science Discoveries – Lessons from Dental Materials Research ―

今里　聡
（大阪大学大学院歯学研究科 歯科理工学教室）

修復治療は，ここ十数年の間に極めて大きな変遷を遂げた歯科医療のひとつである。そして，その変遷の原動力となったのが歯科材料の進歩であることに疑う余地はない。なかでもコンポジットレジンは，膨大な量の研究成果を基に革新的な進化を遂げ，今や，コンポジットレジン充填や CAD/CAM 冠による修復が臼歯部において多用される時代となった。今回のシンポジウムは，この点を深く理解することを目的に企画されたもので，JADR の学術大会にふさわしく，海外から Prof. Jack L. Ferracane（Oregon Health & Science University）と Prof. Ricardo M. Carvalho（University of British Columbia）を，また日本からは宮崎真至教授（日本大学歯学部）を招いて行われた。

具体的には，コンポジットレジン修復がどのように発展を

遂げ，材料学的にみてどのレベルに到達しているのか，現在の接着技術は本当に臨床ニーズを満たすクオリティなのか，といった内容が詳細かつ包括的に提示された。さらに，総合討論においては，超高齢社会が抱える根面う蝕の多発という課題に対する歯科材料の貢献の可能性を含め，今後の材料進化の方向性が議論された。タイトルが示すように，まさしく“歯科材料研究に学ぶ”ことで，歯科医療の今後のパラダイムシフトについて考える絶好のプログラムであった。

Ⅳ．JADR/GC 学術奨励賞を受賞して

1．2018 年度学術奨励賞を受賞して

佐藤　圭祐
（新潟大学大学院医歯学総合研究科　歯周診断・再建学分野）

この度，北海道大学にて開催されました第 66 回国際歯科研究学会日本支部（JADR）総会・学術大会におきまして「The effect of *Porphyromonas gingivalis* oral administration in germ-free mice」という演題で発表させていただき，2018 年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞いたしました。歴史ある学会でこのような栄誉ある賞を賜りましたことを大変光栄に存じます。JADR 会長である山崎和久先生，大会長の佐野英彦先生はじめ，関係の諸先生方に心より感謝申し上げます。

我々の研究グループはこれまでに歯周炎と全身疾患の関連メカニズムを解明する過程で，歯周病原細菌 *P. gingivalis* を口腔投与した歯周炎モデルマウスにおいて腸内細菌叢の変化が腸管上皮バリア機能に影響することで血清中エンドトキシンレベルが上昇し全身性の炎症を誘導することを確認している。我々はこの結果を，歯周炎が全身疾患のリスクを高める新たなメカニズムとして報告した。しかし，これまでの SPF 環境での検証では，*P. gingivalis* 口腔投与による全身性の影響が，腸内細菌叢の変動によるものなのか，*P. gingivalis* 自体の影響なのかを明らかにすることはできていない。そこで，本研究では無菌マウスを用いたノトバイオート実験を行なうことで *P. gingivalis* が単独で全身に与える影響の解析を行っている。研究結果より，無菌環境において *P. gingivalis* 口腔投与は，歯肉・肝臓・腸管組織の炎症を誘導せず，血清中エンドトキシンレベルに影響を与えなかった。本研究結果と SPF 環境におけるこれまでの研究結果との比較により，*P. gingivalis* が単独で全身性の影響を与えるのではなく，腸内細菌 dysbiosis を誘導することにより全身に影響していることが示唆された。しかし，本研究結果は *P. gingivalis* 単独での影響を検証するものであり，他の歯周病原細菌の影響を含めそのメカニズムについては未だに不明な点が多く残る。そのため，さらなる検証が必要であると考えている。

本学会を通じて多くの先生方から研究内容についてご質問いただけたことに加えて，今後の研究に対する多くのアドバイスもいただくことができ，大変貴重な機会となった。この経験を活かし，一層研究に精進していきたいと存じます。 最後に，本研究の遂行にあたりご指導くださいました新潟大学大学院医歯学総合研究科山崎和久教授，多部田康一教授ならびにご協力いただきましたすべての先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

2．2018 年度学術奨励賞を受賞して

瀧本　玲子
（昭和大学歯学部口腔生化学講座）

北海道大学で開催されました第 66 回 JADR 総会・学術大会において発表しました演題「Zoledronate promoted the expression of inflammatory cytokines in $CD14^+$ cells in human peripheral blood mononuclear cells and inhibited their differentiation into osteoclasts」が 2018 年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞致しました。このような名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。

窒素含有型ビスホスホネート製剤（N-BP 製剤）は，骨に特異的に分布し，破骨細胞の機能阻害による骨吸収抑制を起こします。一方，N-BP 製剤を投与すると，一過性に発熱などの急性期反応が生じることが知られており，血液中の細胞を介した炎症反応が示唆されますが，ビスホスホネート製剤の最初の曝露部位である血液中での作用については詳細が明らかになっていません。そこで今回，我々は N-BP 製剤の一種であるゾレドロン酸のヒト末梢血単核細胞（PBMCs）に対する作用を解析しました。その結果，単球・マクロファージで高発現している CD14 の陽性細胞（$CD14^+$ 細胞）が，発熱を引き起こす種々の炎症性サイトカインを，γδ T 細胞依存的に発現することを見出しました。

さらに，ゾレドロン酸で刺激した PBMCs において，多数の骨代謝関連遺伝子が変動することが明らかになりました。中でも，$CD14^+$ 細胞において，破骨細胞分化抑制性の転写因子 IRF8 の発現がゾレドロン酸により誘導されることを発見しました。単球・マクロファージは破骨細胞の前駆細胞であることから，PBMCs 存在下に $CD14^+$ 細胞をゾレドロン酸で処理したところ，$CD14^+$ 細胞の RANKL 依存的な破骨細胞への分化が抑制されました。興味深いことに，PBMCs から γδ T 細胞を除去すると，ゾレドロン酸による破骨細胞分化抑制は減弱しました。これらの結果は，ゾレドロン酸は，破骨細胞の機能抑制だけではなく，γδ T 細胞を介して，単球・マクロファージから破骨細胞への分化も制御することを示唆しています。本研究は，ゾレドロン酸の新たな作用機序の解明につながるものと期待しております。

本学会での発表・質疑は全て英語で行われるため，研究内容を正確に伝えられるか，質問に答えられるか，とても不安でした。しかし，当日は多くの先生から質問や助言をいただき大変勉強になり，貴重な経験をさせていただきました。今後は，より一層歯学研究に精進していきたいと考えております。また，語学力も高めていきたいと思います。

最後になりましたが，ご指導をいただきました歯科口腔外科学講座の代田達夫教授，口腔生化学講座の上條竜太郎教授はじめ，多くの先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

3．2018 年度学術奨励賞を受賞して

長谷川　泰輔
（新潟大学大学院医歯学総合研究科う蝕学分野）

この度，北海道，札幌市の北海道大学で開催された第 66 回 JADR 学術大会において発表させていただきました「Vizantin inhibits bacterial adhesion and causes streptococcal biofilm to detach without affecting bacterial growth.」という演題に対し，2018 年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞させていただきました。このような名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。学会会員ならびに諸先生方に心より御礼申し上げます。

口腔は常在菌が存在するとともに，外界とも交通しており，生体外から絶えず微生物の混入や伝播を受ける特殊な環境にあります。口腔バイオフィルムは他の生体内バイオフィルムとは異なり，ブラッシング等の機械的コントロールが口腔バイオフィルム制御の基本戦略となっています。機械的除去効果向上を目的として殺菌剤や洗浄剤といった化学的コントロールが併用される一方で，殺菌によるバイオフィルム制御は口腔細菌叢を変化させるとともに，耐性菌の出現等が懸念されます。そこで，殺菌に頼らず，バイオフィルムのマトリックス構造をターゲットとした，新しいバイオフィルム制御戦略の開発を目的として研究を行って参りました。我々はその候補物質として結核菌細胞表層糖脂質誘導体ビザンチンの抗バイオフィルム効果に着目し，その機序を解明すべく，ヒト唾液由来 *ex vivo* モデルを用いて各種解析を行って参りました。本研究においてビザンチンは細菌増殖に影響を与えず，菌種特異的には，特に初期付着に関与する *Streptococcus* 属の付着関連遺伝子の遺伝子発現を変化させることで，また，菌種非特異的には菌体表層の表面性状を変化させることによりバイオフィルムの付着減弱効果があることがわかりました。

ポスターディスカッションにて英語での発表を行えたことや先生方に様々なご質問・ご指摘をいただけたことは自分にとってステップアップのための貴重な経験となりました。今回の受賞を励みに，ビザンチンが臨床現場での口腔ケアに役立てられるよう，そのさらなる機序の解明のために，より一層努力して参りたいと考えております。

最後になりましたが，本研究を遂行するにあたり，多くのご指導をいただきました新潟大学・野杁由一郎 教授，竹中彰治 先生をはじめ，共同研究者の皆様に心より感謝申し上げます。

4．2018 年度学術奨励賞を受賞して

長谷川　智香
（北海道大学大学院歯学研究院硬組織発生生物学教室）

この度，第 66 回 JADR 総会・学術大会において，発表させていただきました演題（Paradoxical mineralization in bone and aorta induced by defective FGF23/klotho signaling -Histological examination on *kl/kl* and *aklotho*$^{-/-}$ mice-）に対し，2018 年度 JADR/GC 学術奨励賞を頂戴いたしました。大変歴史のある本学会で，このような栄誉ある賞を賜りましたことを大変光栄に感じております。JADR 会長　山崎和久先生をはじめ，関係の諸先生方に厚くお礼を申し上げます。

本学会にて発表させていただいた研究内容は，歯科界の先人の諸先生方が，かねてから取り組んでこられた石灰化機序解明に関連するものです。特に，腎臓において全身性のリン・カルシウム代謝調節を担う FGF23/klotho シグナルを介した血管・骨基質石灰化のメカニズムについて明らかにしたいと考え，遺伝子改変動物を用いた研究を進めてまいりました。研究に着手した際は，FGF23/klotho シグナル破綻に伴う血清カルシウム・リン濃度上昇は，骨基質石灰化の亢進や血管における古典的な石灰化変性を誘導すると考えておりました。ところが，実際には，骨細胞の機能低下や基質蛋白の制御異常による骨基質の低石灰化が誘導されていることがわかりました。また，血管において平滑筋細胞から骨芽細胞への trans-differentiation による形質転換が生じており，その結果，血管の石灰化変性ではなく骨形成が血管内で誘導されるといった驚くべき現象を捉えるに至りました。その後の研究で，これらの現象は，モデル動物だけではなく，透析患者さんのサンプルでも見られることを明らかにしており、また，口腔領域に存在する歯や顎骨においても，FGF23/klotho シグナルは基質石灰化に関与しているものと考えられます。本研究の遂行が臨床医学歯学にも大きく寄与すると信じて，今後もさらなる解析を進めてまいりたいと思っております。

最後になりましたが，本研究の遂行にあたり，ご指導を賜りました北海道大学大学院歯学研究院硬組織発生生物学教室網塚憲生教授，ならびに，ご協力とご助言をいただきました全ての皆様に心よりお礼申し上げます。

5．2018 年度学術奨励賞を受賞して

森本　真弘
（北海道大学大学院歯学研究院血管生物分子病理学教室）

この度，第 66 回 JADR 学術大会にて発表いたしました「Promotion of metastasis via alteration of vascular endothelium by tumor exosome miRNA」という演題に対し，2018 年度学術奨励賞を受賞致しました。このような賞を賜りましたことを大変光栄に思いますと共に関係各位に深く感謝申し上げます。

腫瘍血管内皮細胞は正常血管内皮細胞と比較して様々な点で異なることが知られています。その異常性獲得メカニズムについては，未だ多くの点が不明なままです。そこで，われわれは腫瘍細胞が分泌する細胞外分泌小胞（エクソソーム）に着目しました。エクソソームとは，様々な細胞が分泌する直径 100nm 程度の小胞であり，内部にタンパク質，mRNA，miRNA を含んでいます。本研究では，低転移性腫瘍と比較して高転移性腫瘍が分泌するエクソソームに多く含まれる miR-X が血管内皮の形質を変化させ，転移を促進するのではないかと考えて解析を行いました。

転移促進メカニズムとして，miR-X が内皮 - 腫瘍細胞間接着および内皮細胞間接着に与える影響に着目しました。miR-X を血管内皮に処理すると，内皮—腫瘍細胞間の接着分子 ICAM-1 の発現が誘導され，内皮に接着する腫瘍細胞数が増加しました。また，血管内皮細胞間の接着分子である VE-Cadherin の発現を抑制し，血管透過性を亢進させました。以上より，高転移性腫瘍が分泌するエクソソーム中の miR-X は血管内皮に取り込まれることにより，内皮への腫瘍細胞の接着促進および血管内皮のバリア機構の破壊による腫瘍細胞の血管内浸潤促進を介して，転移を促進することが示唆されました。今後は，腫瘍由来エクソソームや miR-X を標的とした診断，治療への応用が期待されます。

今回は慣れない英語での発表でしたので，その分準備が大変でしたが，その過程で非常に多くのことを学ぶ機会となりました。審査の際には，審査員の先生方から，今後の研究に役立つ貴重なご意見をいただくことができました。今回の受賞を励みにし，今後も日々研究に精進していきたいと思います。

最後になりましたが，発表にあたり多くのご指導をいただきました北海道大 学・樋田京子教授ならびにご協力頂きました多くの先生方に心より感謝申し上げます。

6．2018 年度学術奨励賞を受賞して

吉田　光希
（北海道医療大学歯学部臨床口腔病理学分野）

この度，北海道大学にて開催されました第 66 回国際歯学研究学会日本部会（JADR）での発表演題「Dedifferentiation and Direct Reprogramming of epithelial cell rests of Malassez into osteoblast like cells by epigenetic agents」に対しまして，JADR/GC 学術奨励賞という大変栄誉ある賞をいただき，誠に光栄に存じます。今回の発表は英語でのポスタープレゼンテーション･ディスカッション形式でしたが，私の拙い英語発表に対し，寛大なご配慮をくださいました選考委員の皆様に厚く御礼申し上げます。

本研究は，近年 iPS 細胞などの幹細胞研究において新たに注目されているエピジェネティクス修飾技術を応用したもので，歯根膜に存在するマラッセ上皮細胞にエピジェネティクス操作を加えることで脱分化を行い，間葉系の骨芽細胞へ分化誘導したものです。マラッセ上皮細胞では歯髄細胞と同様に，一部に幹細胞特性を有することから，再生医療への応用が期待されていました。あくまでも将来的な展望となりますが，今後さらなる研究を進めていくことで，エピジェネティクス技術が歯周組織の再生に寄与できる可能性も考えられます。今後も，エピジェネティクス技術を応用した歯周組織再生についての研究等を進めていく予定でございます。

今回の受賞によって，私自身はもとより，所属講座の大学院生をはじめとする若手研究者にとって大変刺激となったようで，研究に対するモチベーションがますます向上したような印象を受けております。また，本研究に対しご指導いただきました所属講座の安彦善裕教授はじめご協力いただきました諸先生方に感謝申し上げます。

最後になりましたが，このような大変素晴らしい機会を設けてくださいました JADR の皆様に心より御礼申し上げます。

Ⅴ．JADR/Joseph Lister Award を受賞して

1．2018 年度 Joseph Lister Award を受賞して

髙木　ひかる
（広島大学歯学部歯学科 5 年）

この度は，第 66 回 JADR 総会･学術大会において，演題「Serum antibody titer against FimA Type IV of *Porphyromonas gingivalis* is a possible marker for preterm birth caused by periodontitis.」に対して Joseph Lister Award をいただきました。学部学生という立場で，学会発表という貴重な体験をさせていただき，歴史ある学会でこのような賞をいただくことができ，大変光栄でうれしく思っております。学会会員の皆さま方ならびに諸先生方に心より感謝申し上げます。

今回の研究では，広島大学病院産婦人科を受診した妊婦 100 名の血清を集め，*P.g.* FimA タイプ別血清抗体価（Type Ⅰ

~Type Ⅴ）を *P.g.* 低値群と *P.g.* 高値群に分けて設定，ELISA 法で測定した結果，Type Ⅰ ~Type Ⅴの *P.g.* 低値群では早産率が約 20％であったのに対し，Type Ⅰ，Type Ⅱ，Type Ⅳ *P.g.* 高値群では約 30％と高い傾向を示すことを明らかにしました。また，口腔内の歯周ポケット上皮の面積の和を示す periodontal epithelial surface area（PESA）および出血を伴うポケット上皮の面積で歯周炎の活動性を示す periodontal inflamed surface area（PISA）と，血清抗体価との関係を検討し，PISA と PESA の値がともに，Type Ⅱ，Type Ⅳ，Type Ⅴの *P.g.* 高値群において有意に高いことを明らかにしました。さらに，Type Ⅳ *P.g.* 高値群の胎盤では全例で免疫組織化学的に *P.g.* が検出され，そのうち 44.4％に *P.g.*FimA Type Ⅳの DNA が検出されました。以上の本研究により，*P.g.*FimA Type Ⅳの血清抗体価は早産を予測するマーカーになる可能性が示唆されることを明らかにしました。

本大会では以上の研究成果を報告致しました。発表の際には，多くの先生方にご質問やご助言をいただき，これからの自らの研究の課題点や様々な気付きをいただくことができました。

私は，自ら研究に携わってみたいという気持ちで広島大学歯学部の最先端歯学研究コースに所属しました。口腔顎顔面病理病態学研究室で，歯周病が全身の健康状態に及ぼす影響について研究されていることを知り，研究に参加しました。中でも，歯周病が出産に悪影響を及ぼし，早産誘発しているという研究テーマに大変興味を持ちました。同じ女性として妊娠前に早産を予測できるマーカーを見つけ，早産を予防することにつなげることができたらと思い，二年間研究を行ってきました。研究を行っていく中で，思うように結果が出ず，同じ実験を，少しずつ条件を変えながら，試行錯誤を続ける毎日を過ごす時期がありました。その経験を通し，改善点を探し，結果に至る過程を非常に楽しく感じるとともに，さらに研究を深めたいと思うことが出来ました。

早産は母体，胎児ともに危険を及ぼすことが多く，胎児後遺症の原因となります。妊娠前の検査で，「*P.g.* FimA Type Ⅳ血清抗体価が高い場合には，早産を未然に防ぐために，口腔内診査や歯周治療を行う」ということが臨床の場で当然のごとく行われるよう，これからも研究を続け，基礎的データを提供していきたいです。

最後になりましたが，研究を一から指導してくださり，このような貴重な機会を与えてくださった，口腔顎顔面病理病態学教室の高田隆教授，宮内睦美准教授，古庄寿子助教，そして研究室の皆さまに心より感謝申し上げます。

2．2018 年度 Joseph Lister Award を受賞して

植田　紫衣生
（昭和大学歯学部 4 年）

2018 年 11 月 17 日～ 18 日，北海道大学で開催されました第 66 回 JADR 学術大会におきまして，「Sucrose suppressed osteoclast differentiation」の演題名でポスター発表をし，2018 年度 JADR/Joseph Lister Award を受賞しました。このような栄誉ある賞を受け賜りましたこと大変嬉しくまた光栄に存じます。また，学部学生の間にこのような貴重な経験を得ることができましたことを大変有難く思います。

研究のきっかけは，学校の研究入門という授業でした。スクロースが齲蝕の発生と進行を誘導することを知っていましたが，スクロースが歯周病の進行に及ぼす影響については知見が少ないため，興味を持ちました。スクロースが歯周病原性細菌に及ぼす影響についても研究する必要がありますが，まず人の細胞がどう反応するのか知りたいと思い，研究を始めました。最初は研究がどのようなものか何も分からない状態からスタートしましたが，口腔生化学講座の先生方の丁寧なご指導の下，研究の基礎の基礎から教えていただき，研究の楽しさだけでなく大変さも経験することができました。

今回の研究では，破骨細胞分化に着目して歯周病の進行に及ぼすスクロースの影響を検討しました。マクロファージを RANKL で刺激すると同時にスクロースを添加し，破骨細胞を形成した後，破骨細胞分化を TRAP 活性および遺伝子発現により評価しました。コントロールとしてグルコースも使用しました。スクロースはグルコースと比較して，TRAP 活性を濃度依存的に抑制したこと，NFATc1 などの破骨細胞分化マーカー遺伝子の発現を抑制したことから，スクロースが破骨細胞分化の抑制を介して歯周病の進行を妨げる可能性があることを示唆しました。

ポスター発表では英語で内容を正しく伝える難しさを実感し，これからも勉強や研究だけではなく語学力も高めなければならないと感じました。発表後も研究内容について他大学の先生方と議論することができ，とても有益なご指摘をいただくことができました。同時に JADR/Joseph Lister Award を受賞した他大学の学生の方々との出会いにも感謝しております。

最後になりましたが，ご指導いただき，貴重な機会を与えてくださった昭和大学歯学部口腔生化学講座の上條竜太郎先生，吉村健太郎先生，講座の皆様，そして多くの協力してくださった方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

3．2018 年度 Joseph Lister Award を受賞して

吉田　泰士
（北海道大学 5 年）

この度，札幌で開催されました第 66 回 JADR 学術大会において，2018 年度 Joseph Lister Award を受賞させていただきました。このような素晴らしい賞を受賞させていただき，大変光栄に思います。

私の演題は，「Histochemical assessment of mandibular alveolar bones and tibiae in obese type II diabetic SDT Cg-Lepr^{fa} fatty rats」でした。糖尿病は，様々な合併症を引き起こす疾患で，硬組織では骨粗鬆症や歯周病がよく知られており，歯科でも注目されている疾患のひとつです。本研究では，重度のⅡ型糖尿病モデルである SDT fatty ラットを用いて，非感染部位である脛骨と，感染部位である歯周組織のそれぞれを組織化学的に検索いたしました。すると，SDT fatty ラットにおいて，脛骨では，骨芽細胞や破骨細胞よりも，むしろ，骨細胞・骨細管系の機能破綻による「骨質」の低下をきたしていることがわかりました。糖尿病性骨粗鬆症で知られている，骨量は維持されるにも関わらず骨折リスクが上昇するという現象は，「骨質」の低下に起因することが推察されました。一方，歯周組織では，重度の細菌感染と，これに伴う著しい歯槽骨の吸収があり，糖尿病により惹起される骨の組織学的な異常は，細菌感染により増悪することが示唆されました。

この研究は，私が学部 2 年生の頃に始めたものです。もちろん，2 年生の組織学を少しかじっただけの学生が，いきなり研究できるはずもなく，技法から理論まで手取り足取りご指導いただきながらのスタートでした。今回の受賞に関しても，網塚先生，長谷川先生，本郷先生はじめ，硬組織発生生物学教室の先生方のバックアップが大きなウエイトを占めていることは言うまでもありません。それでも，自分なりに思案し，幾度となく失敗しながら進めた研究に評価をいただけたことは，大変意味のあることだと信じております。また，慣れない英語での発表に自分の力不足を痛感する良いきっかけにもなりました。この経験を糧に，今後も研究を続けていく所存です。

最後になりましたが，審査員の先生方，ご指導いただきました硬組織発生生物学教室の先生方，学術大会の運営に力を尽くしてくださった北大歯科保存学教室の先生方にお礼を申し上げて，私からのコメントとさせていただきます。

Ⅵ．JADR Travel Award を受賞して

1．Report of 66th Annual Meeting of JADR — 2018 JADR Travel Award Winner

Omel Baneen Qallandar, BDSc MDent PhD Candidate
（School of Oral Health and Dentistry, Griffith University, Gold Coast Australia）

It was an absolute honour to attend and present at the 66th Annual Meeting of Japanese Association of Dental Research held in Sapporo City, Hokkaido. I represented the Australian and New Zealand Division of the International Association of Dental Research and as junior researcher I thoroughly enjoyed experience. My day trip to Sapporo City was icy on the 17th of November but the warm hearts of the people of Japan made it worthwhile.

Though, I was only there for a day, I met and heard some extraordinary individuals that have laid the foundation for dental research and learnt of many novel and invaluable research that will shape tomorrows dentistry. I was also fortunate to meet some of the key members of the JADR committee including the Chairman Professor Kazuhisa Yamazaki and Professor Hidehiko Sano and made friends with other young researchers from Philadelphia and Indonesia.

Overall the meeting was well organized and covered a wide range of recent advances in various oral and dental research, the symposiums were extremely captivating and informative. The meeting began with the symposium by “New era of oral medicine” which was rather meticulous and formed the theme of the entire meeting. At the poster presentations, I took the opportunity to discuss and intermingle with the other experienced and fellow young researchers from all over the globe. Moreover, it was exciting to meeting researchers with similar research interest to mine “Oral squamous cell carcinoma and bone invasion” which further fuelled my discussions.

Finally, I am very grateful for the opportunity provided by JADR and humbled by the experience. I took a lot of inspiration from the researchers I met and research presented at JADR. The memories I have brought back with me will always be cherished and I cannot wait to be back for more.

Thank you to all for the opportunity and for making it fantastic

佐野大会長と筆者

experience.

2． JADR Travel Award 2018

Apoorva Mathur
（Department of Orthodontics, Centre for Dental Education and Research (CDER), AIIMS, New Delhi）

I came to Japan as a recipient of the JADR Travel grant award recipient representing the Indian Association for Dental Research (IADR-India Section) to present part of my doctoral work titled “Nanobiomimetic scaffold for improved soft tissue integration in Dental Implants”. I am a PhD scholar under the esteemed guidance and mentorship of Prof. O.P. Kharbanda, Professor and Head, Dept of Orthodontics, and Chief, Centre for Dental Education and Research, All India Institute of medical Sciences, New Delhi, India. My doctoral work is focused on surface biomodification of Dental implants using nanointervention, for enhancing the soft tissue-implant interface.

The 66th Annual meeting of JADR held at Hokkaido University was an experience par excellence. The Scientific Program was scrupulously planned and executed in sync with the Japanese tradition of excellence. The symposia and special lectures imparted knowledge on cutting edge research. Of special interest were the lectures by Dr. Rena D' Souza (Small molecule replacement therapies cure craniofacial defects in mice) and Dr. Jungi Tagami (Creating the super tooth by adhesive technology).

山崎会長と筆者

The poster presentation was a great opportunity to present my work as well as interact with fellow researchers. I benefited immensely from the academic exchange. The sessions on day one were followed by a wonderful Japanese style reception in the evening, which was one of the highlights. The unforgettable moment was, however, receiving my travel award certificate and the prize by Prof. K Yamazaki, President JADR. At every step, the hospitality and warmth of the organizers and people of the country was unmatched.

This time of the year also saw Hokkaido University painted with the beautiful colours of fall. The scenes of Sapporo city were so picturesque that they will remain etched in my memory for ever. I am keen to visit Japan again very soon to discover more about the advances in dental science as well as explore its culture. Thank you JADR for making this visit a truly memorable one.

3． Incredible moments in Sapporo

Kang Jeong-Hyun
（Oral Medicine, Ajou University School of Medicine, Suwon, Gyeonggi-do, THE REPUBLIC OF KOREA）

It was my honor to attend the 66th JADR conference in Sapporo as a representative of the Korean division of the International Association of Dental Research. The hospitality of the JADR members and the ambience of the historic city was so impressive.

Having a good opportunity to meet most advanced knowledge of dentistry in both clinical and basic research field would be most appealing point of JADR meeting. Because I am a clinician, it was hard to learn up to date advanced technology in basic research field on a regular basis. Many research posters and symposium about cellular and molecular based research gave me a lot of inspiration.

The evening reception and the award ceremony was the incredible moments. The JADR 2018 in Sapporo was a fabulous experience for me.

Thank you for having me the chance.

4． JADR Travel Award 2018

Kassapa Ellepola
（PhD, Faculty of Dentistry, National University of Singapore）

Let me express my sincere gratitude to the JADR for selecting me as a travel award recipient for the 66th annual meeting held in Hokkaido. The meeting was an excellent opportunity to share my research on bacterial-fungal mixed-species interactions in dental caries.

Although the depth and breadth of research in dental caries has substantially increased over the past years, our understanding of the disease pathogenesis still remains unclear. Although *Streptococcus mutans* is considered the main etiological agent, many studies suggest that dental caries is a multi-species infection. Several clinical studies have demonstrated the presence of opportunistic fungi such as *Candida albicans*, together with *S. mutans* in the plaque especially in children with early-childhood tooth decay. Our aim is to study these bacterial-fungal inter-kingdom interactions using recent advancements in omics technologies such as transcriptomics, proteomics and metabolomics.

The meeting was an excellent platform for networking and I had the privilege of having several valuable discussions with senior researchers. The conference also allowed me the opportunity to explore Japan, a beautiful country with rich tradition and history and to take a glimpse at the lives of the wonderful Japanese people. I would like to convey my best wishes to the JADR and wish success in all their future endeavors.

Ⅶ. 理事会，評議員会および総会報告

JADR 前会長　山崎　和久
（新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野）

2018 年度は，理事会が 4 回（2 月 27 日，5 月 14 日，8 月 27 日，11 月 16 日）開催されました。

評議員会・総会は，第 66 回 JADR 学術大会会期中の 11 月 17 日に，北海道大学歯学部において開催されました。冒頭で評議員会成立のための定足数を満たしていることが確認され，また，小野高裕先生（新潟大学）ならびに西村英紀先生（九州大学）が議事録署名人として選出されました。

以下評議員会および総会において決定された 2019 年度の事業計画などについて報告いたします。

1）2019 年度事業計画

以下の 2019 年度事業計画が提案され承認されました。

理事会：4 回開催（2，5，8，11）
評議員会・総会：第 67 評議員会・総会開催日時（11 月）
学術大会：第 67 回学術大会（11 月）
　11 月 28 日～ 30 日に Brisbane（Australia）にて開催
　（第 4 回 APR 学術大会と併催）
各種委員会：JADR/GC 学術奨励賞選考委員会
　Joseph Lister Award 選考委員会
Newsletter：年 2 回発行（3 月，9 月発行予定）
Mail News：年 4 回程度を予定
日本歯科医学会理事会出席（陪席）
IADR 2019 年度 Council Meeting へ役員を派遣
APR 2019 年度 Board Meeting へ役員を派遣
2020 年度 IADR Hatton Award 候補者選考
IADR Vice President 候補者を IADR 本部へ推薦
IADR 各種 Committee 委員へ JADR 会員を推薦
IADR 本部へ JADR Annual Report を提出

2）2017 年度会計決算（案）および 2019 年度会計予算（案）について

会計決算は，高橋信博監事，村上伸也監事による監査承認後，第 1 回理事会承認を経て，評議員会および総会において満場一致で承認された。2019 年度会計予算案は，第 4 回理事会で承認を経て，評議員会および総会にて満場一致で承認されました。

3）次期会長選出について

正会員による投票の結果，以下の次期会長（2021 年 1 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日）が選出されました。

中村　誠司（九州大学大学院歯学研究院顎顔面腫瘍制御学分野）

4）次期会長および役員（理事・監事）について

役員選出規程に従い，下記の JADR 次期役員（案）が上程され，第 4 回理事会の議をへて，評議員会および総会で満場一致で承認されました。任期はいずれも 2019 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日まで。

役員名簿（2019-2020）

会長	今里　聡	大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室
副会長／次期会長	中村　誠司	九州大学大学院歯学研究院顎顔面腫瘍制御学分野
前会長	山崎　和久	新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野
会計理事	森山　啓司	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野
理事	石原　和幸	東京歯科大学微生物学講座
理事	本田　雅規	愛知学院大学歯学部口腔解剖学講座
理事	葭原　明弘	新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野
理事	池邉　一典	大阪大学大学院歯学研究科高齢者歯科学教室
理事	後藤多津子	東京歯科大学歯科放射線学講座
理事	野田　守	岩手医科大学歯科保存学講座
理事	松本　卓也	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体材料学

理事	山田　聡	東北大学大学院歯学研究科歯内歯周治療学分野
監事	高田　隆	広島大学大学院医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理学
監事	高橋　信博	東北大学大学院歯学研究科口腔生物学講座口腔生化学分野

5）終身会員推挙について

会則に従って，以下の会員（敬称略）が理事会より終身会員として推薦され，評議員会および総会において承認されました。

終身会員　落合　良仁
熊田　秀文
田中　光郎
花田　信弘
前野　正夫
宮川　行男
渡辺　　久

Ⅷ．第 37 回 IADR 韓国部会（KADR）学術大会報告

JADR 会長　今里　聡
（大阪大学大学院歯学研究科 歯科理工学教室）

IADR 韓国部会（KADR）より招へいを受け，2018 年 11 月 10 日（土）に開催された 2018 Annual Meeting of KADR（第 37 回大会）に参加してきました。学会前日の夕刻に韓国入りしましたが，例年になく気温の高い日本と比べるとソウルは早くも冬の装いで，街を歩く人はみなコート姿でした。到着したこの日に KADR の会長である Jin-Bom Kim 教授（釜山大学）主催の歓迎ディナーにご招待いただき，厚いおもてなしを受けました。ディナーには，次期会長である Seog Bae Oh 教授（ソウル国立大学）や 2016 年の IADR ソウル大会の大会長であった Byung-Moo Min 教授，過去の KADR 会長を始め，総勢 10 名が参加され，和やかかつ賑やかな雰囲気で，韓国料理を楽しみながら，KADR と JADR の友好関係等について話がはずみました（写真 1, 2）。

学会は，ソウル国立大学歯学部病院の地下 1 階の講堂で開催され（写真 3），当日は天候にも恵まれて爽やかな 1 日でした。JADR とは異なり，KADR の年次大会は 1 日だけのプログラムとして開催されます。また，LOC は組織されず，その年の KADR 会長が自らほぼすべてを仕切るスタイルのようです。IADR 本部でのまとめによると，KADR の会員は 174 名（2018 年 9 月 30 日現在）であり，決して大きな division とは言えません。そのため，参加者は 50 ～ 60 名程度でしたが，プログラムは，私の招待講演（写真 4）を含め，ポスター発表以外はすべてが基調講演やシンポジウム形式の講演で，主に基礎系研究者が集う学会であることからも，science のレベルは非常に高いものであると感じました。また，今大会からは，午前中の講演をすべて英語でのプログラムとする試みがスタートし（昨年までは，JADR からの招待講演以外はすべて韓国語で実施されていたそうです），国際化に向けた活動が進められており，いずれはすべてのプログラムの公用語を英語にする予定とのことです。

ポスター発表はほとんどが若手研究者によるものですが，JADR に比べると演題数が少なく（今回は全 29 題，写真 5），Kim 会長は，もっと数を増やすように努力したいと強く語っておられました。ただ，Hatton Award の国内選考が，学会の朝一番の口頭発表プログラムとしてオープンで審査が行われていたのに加え，候補者はポスター発表でも研究内容を紹介する方式が取られており，若手の育成に力を入れている様子がうかがえました。

学会当日のランチには，KADR の現執行部のメンバー以外に，KADR が創設された頃の会長が何名か同席され，当時の

写真 1

写真 2

思い出話に花が咲いておりました。KADR は 1971 年に設立され，1982 年に正式に IADR の division として認められましたが，大阪大学の故河村洋二郎先生がこの認定に大きく貢献されたとのことで，感慨深げに当時の話を思い出されていました。両 division の長年の友好関係を垣間見ることができ，今後もさらに両者が結びつきを深めつつ，さらなる発展を遂げられるよう努力すべきであると意を新たにしました。

最後になりましたが，今回の訪韓に際しては，Kim 会長，Oh 次期会長，ならびに国際交流担当の Il Ho Jang 先生（釜山大学）に大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げたいと思います。

写真 3

写真 4

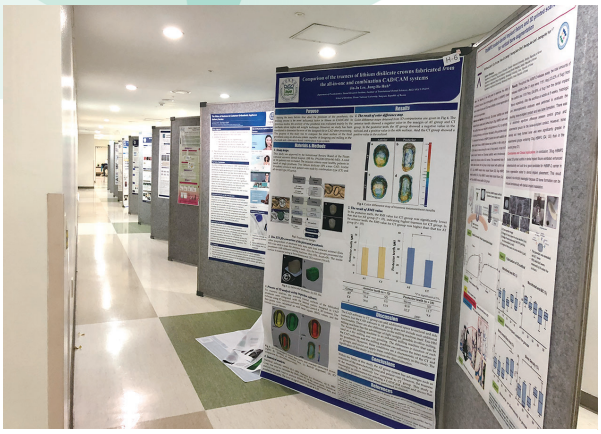


写真 5

Ⅸ. 第 67 回 JADR 総会・学術大会開催のご案内

JADR 会長　今里　聡
（大阪大学大学院歯学研究科 歯科理工学教室）

第 67 回 JADR 総会・学術大会は，2019 年 11 月に Australia, Brisbane で開催される第 4 回 IADR Asia Pacific Region（APR）学術大会と併催で行われます。

今大会は，IADR Korean Division を host とし，Japanese Division, Chinese Division, IADR Southeast Asian Division, Australia/New Zealand Division, Indian Section, Mongolian Section, Pakistan Section の共催で行われるものです。国際色豊かな大会で，それぞれの Division, Section の年次総会もこの大会の中で行われます。この中で JADR は Asia Pacific Region の歯科医学研究の牽引役として期待されています。多数の会員の皆様の参加を得て大会を盛り上げたいと思います。奮ってのご参加を期待しております。

第 67 回 JADR 総会・学術大会
4th Meeting of IADR Asia/Pacific Region（APR）と併催
開催日時：2019 年 11 月 28 日（木）～ 30 日（土）
開催場所：Brisbane Convention & Exhibition Centre（BCEC），
Australia Corner of Merivale and Glenelg Street
Southbank Qld 4101
大会ウェブサイト：https://iadr-apr2019.com/
演題登録期間：2019 年 4 月 15 日～ 7 月 1 日
事前参加登録期間：2019 年 6 月 28 日～ 8 月 28 日
主　催：IADR Australia/New Zealand Division

X．第 97 回 IADR 学術大会開催レポーター募集（2019 年度 IADR, Vancouver, Canada）

2019 年 6 月 19 日（水）～ 22 日（土），（Vancouver, Canada）で第 97 回 IADR 総会･学術大会が開催されます。つきましては，JADR 会員の先生方から IADR 大会の様子など 9 月発行予定の JADR Newsletter 第 2 号にご紹介いただきたくご案内いたします。総会へ初めて参加される方からでも大歓迎です。

レポーターをお引受けいただける先生は，大会報告を事務局へお送り下さい。多数お待ちしております。

字　　数：1200 字程度
締　　切：7 月 26 日（金）
執筆内容：第 97 回 IADR Vancouver, 大会に各自が参加した分野の報告。シンポジウム，ポスター，口頭発表などから自由に記載（過去のニュースレター参照）
原稿送付方法：TEXT file か MS WORD で，E-mail にて事務局へ送付

XI．IADR Hatton Award 応募候補者（2020 年度 IADR, Washington, D.C., USA, 98th General Session & Exhibition of the IADR）の募集

2020 年度の Hatton Awards 応募候補者を募集します。応募ご希望の方は 6 月以降に Website に掲載します応募要領をご覧の上ご応募下さい。

本賞は第 10 代 IADR 会長 Edward Hatton 博士の功績をたたえて設けられた若手研究者を顕彰するための賞です。応募カテゴリーは，Junior 部門，Senior- Basic Science 部門，Senior-Clinical Research 部門の 3 部門です。各 Division から推薦を受けた候補者は IADR 学術大会の前日に行われる Hatton Awards 本選にて審査を受け，各部門上位 2 名が順位付けで受賞者に選ばれます。

なお，各部門への応募資格と研究内容の区分は，以下のようになります。

Junior 部門：
歯学部学生による研究発表です。歯学部在籍中に行った研究が対象となります。基礎研究，臨床研究を問いません。

Senior 部門：
大学院在籍者，研究生，専攻生等による研究発表です。博士号既得者の場合，本選時に博士号取得後 3 年以内であれば応募できます。

Senior 部門は，下記 2 つの分野に分かれます。

- Basic Science Research: Involving laboratory or animal research
- Clinical/Pre-clinical Research：Involving research on human subjects and/or epidemiologic studies

XII．第 68 回日本口腔衛生学会・総会共催講演のご案内

JADR 会長　今里　聡
（大阪大学大学院歯学研究科 歯科理工学教室）

第 68 回日本口腔衛生学会総会（日程;2019 年 5 月 22 日（水）～ 24 日（金）、於；ピアザ淡海）会期中に、JADR 次期会長講演として、Prof. Paula Moynihan（IADR President-elect）の講演が開催されます。

本講演については、国際歯科研究学会日本部会（JADR）との共催で進められる運びとなりましたので、下記にてご案内申し上げます。本会会員の先生方へは、会場 1F ロビーに設置の日本口腔衛生学会事務局受付にて JADR の会員証を提示いただきましたら、同学会会員と同様に、プログラム抄録集のお受け取りが可能となっております。多数の会員の先生方の参加を期待しております。

第 68 回日本口腔衛生学会総会
IADR 次期会長講演
（国際歯科研究学会日本部会（JADR）との共催企画）
開催日時：2019 年 5 月 23 日（木）11 時～ 12 時
開催場所：ピアザ淡海　A 会場（ピアザホール）
（〒 520-0801 滋賀県大津市におの浜 1-1-20）
講演者：Prof. Paula Moynihan（IADR President-elect）
大会ウェブサイト：http://www.kokuhoken.jp/jsoh68/

CONTENTS

Ⅰ．巻頭言　今里　聡　1
Ⅱ．会長任期を終えて　山崎　和久　2
Ⅲ．第 66 回 JADR 学術大会報告
佐野　英彦／星加　修平　3
1. シンポジウムⅠ報告　北川　善政／中村　誠司　4
2. シンポジウムⅡ報告　横山　敦郎　5
3. シンポジウムⅢ報告　林　美加子　5
4. シンポジウムⅣ報告　今里　聡　5
Ⅳ．JADR/GC 学術奨励賞を受賞して
1. 佐藤　圭祐　6
2. 瀧本　玲子　6
3. 長谷川泰輔　7
4. 長谷川智香　7
5. 森本　真弘　8
6. 吉田　光希　8
Ⅴ．JADR/Joseph Lister Award を受賞して
1. 高木ひかる　8
2. 植田紫衣生　9
3. 吉田　泰士　9
Ⅵ．JADR Travel Award を受賞して
1. Omel Baneen Qallandar　10
2. Apoorva Mathur　11
3. Kang Jeong-Hyun　11
4. Ellepola Kassapa　11
Ⅶ．理事会、評議員会および総会報告　12
Ⅷ．IADR 韓国部会 (KADR) 学術大会に参加して
今里　聡　13
Ⅸ．第 67 回 JADR 総会・学術大会
（第 4 回 APR（Brisbane, Australia）開催のご案内　14
Ⅹ．第 97 回 IADR 学術大会開催レポーター募集
（2019 年度 IADR, Vancouver, BC, Canada）　15
Ⅺ．Hatton Award 応募候補者 2020 年度
（第 98 回 IADR, Washington, D.C., USA）公募募集　15
Ⅻ．第 68 回日本口腔衛生学会・総会　共催講演のご案内　15

Ⅰ．Greeting of the New JADR President
Dr.Satoshi Imazato: JADR President　1
Ⅱ．Experience as President of JADR
Dr. Kazuhisa Yamazaki: JADR Immediate Past President　2
Ⅲ．Reports of the 66th JADR General Session
Dr.Hidehiko Sano: Chairman of the 66th Annual Meeting of the Japanese Division of the IADR (JADR)
Dr.Shuhei Hoshika: Secretary general of the 66th Annual Meeting of the Japanese Division of the IADR (JADR)　3
1. Symposium Ⅰ「New Era of Oral Medicine」
Dr. Yoshimasa Kitagawa: Hokkaido Univ.
Dr. Seiji Nakamura: Kyushu Univ.　4
2. Symposium II「Current Topics of Prosthodontic Treatment using Partial Dentures」
Dr. Atsuro Yokoyama : Hokkaido Univ.　5
3. Symposium III「Frontiers of adhesive dentistry: new discoveries promise a bright future」
Dr. Mikako Hayashi: Osaka Univ.　5
4. Symposium IV「Advances in Clinical Dentistry Resulting from Basic Science Discoveries -Lessons from Dental Materials Research」
Dr. Satoshi Imazato: Osaka Univ.　5
Ⅳ．2018 JADR/GC Young Investigator Award
1. Dr. Keisuke Sato: Niigata Univ.　6
2. Dr. Reiko Takimoto: Showa Univ.　6
3. Dr. Taisuke Hasegawa: Niigata Univ.　7
4. Dr. Tomoka Hasegawa: Hokkaido Univ.　7
5. Dr. Masahiro Morimoto: Hokkaido Univ.　8
6. Dr. Koki Yoshida: Health Sciences Univ. of Hokkaido　8
Ⅴ．2018 JADR/Joseph Lister Award
1. Dr. Hikaru Takagi: Hiroshima Univ.　8
2. Dr. Shiina Ueda: Showa Univ.　9
3. Dr. Taishi Yoshida: Osaka Univ.　9
Ⅵ．2018 JADR Travel Award
1. Omel Baneen Qallandar　10
2. Apoorva Mathur　11
3. Kang Jeong-Hyun　11
4. Ellepola Kassapa　11
Ⅶ．Report of the Board Meeting, Annual Business Meeting and the Councilor Meeting
Dr. Kazuhisa Yamazaki: JADR Immediate Past President　12
Ⅷ．Report of the 37th KADR academic meeting
Dr. Satoshi Imazato: Osaka Univ.　13
Ⅸ．Announcement of the 67th JADR General Session
（4th meeting of APR（Brisbane, Australia）　14
Ⅹ．Call for Reports of the 97th IADR General Session in Vancouver, BC, Canada）　15
Ⅺ．Call for the Hatton Awards Competitors of the 98th IADR General Session in Washington, D.C., USA from JADR　15
Ⅻ．Special lecture of the IADR president elect during the 68th General meeting of Japanese Society for Oral Health　15

●編集後記●

2019 年1月から，今里聡先生を会長とする新執行部がスタートいたしました。理事には多くの新しい顔ぶれも加わりましたし，今里先生の強いリーダーシップのもとに新執行部が力を合わせ，JADR の活性化に努めたいと思います。JADR は長年にわたって世界第 2 位の会員数を有する IADR division として活動をして参りましたが，最近は会員数が伸び悩み，とうとう中国に追い抜かれてしまいました。新執行部の命題は，JADR の活性化の一つとして，会員数を増やすことだと思います。歴代の執行部がさまざまなご努力をされてこられましたが，国内の学会は増加の一途を辿り，JADR の存在意義が問われているのだと思います。JADR の存在意義をいかにして高めるかが重要な課題だと思います。ただし，会員数だけが増えても，活動内容や実績を伴わなければ意味はありません。日本の歯科研究は世界的にも素晴らしいものがありますので，その実力を世界に示し，JADR のプレゼンスをより高めることが大切です。今年は，6 月にバンクーバーで IADR，11 月にはブリスベンで IADR-APR の学術大会が開催される予定で，IADR-APR の大会があるために国内の JADR の学術大会はありません。振るって IADR と IADR-APR の学術大会に参加して，皆様方の研究成果を示していただけたらと思います。

発　行：国際歯科研究学会日本部会（JADR）　http://jadr.umin.jp
連絡先：
国際歯科研究学会日本部会（JADR）
副会長　中村　誠司（九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野）
〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302
TEL：075-468-8772　FAX：075-468-8773　E-mail：jadr@ac-square.co.jp
2019 年 3 月 31 日　発行